

泌尿器科当直医マニュアル

「臨床泌尿器科」編集委員会 編

臨床泌尿器科 2021年4月号(増刊号)(Vol.75 No.4)

＜書評者＞ 三井 貴彦 (山梨大教授・泌尿器科学)

泌尿器科は、新生児から高齢者まで幅広い年齢層を対象とした診療科ですが、対象疾患も泌尿器悪性腫瘍から下部尿路機能障害、小児泌尿器疾患、女性泌尿器疾患、腎機能障害、腎移植、内分泌疾患、外傷など、多岐にわたります。通常診療においても、これらの疾患に対する幅広い診療を行う必要があります。加えて当直の際には、経験する機会が少ない疾患や教科書にあまり詳細に記載されていない疾患に対する診療を行わなければならないことがあります。日中ですと上級医に相談すればよいですが、当直時には自分自身で判断しなければならないケースも珍しくありません。一方、経験する機会が少ない疾患や病態については、上級医であっても治療方針の決定に苦慮することも少なくないはず

です。

本書は総論から始まり、外来診

療および入院診療で緊急で対応しなければならない疾患、さらに泌尿器科医が対応に苦慮する疾患まで、非常に良くまとまって解説されています。経験する機会が少ない疾患はもちろんですが、当直で経験する可能性のある各種疾患についても、「絶対に見逃してはいけないポイント」や「診療のフローチャート」が記載されていますので、限られた時間のなかで診療方針を立てる際に役に立つと思います。また、救急外来で診る可能性のある急性期の疾患や、近年泌尿器科でも使用頻度が増えている悪性腫瘍に対する分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などの有害事象への対処法は、通常の外来診療でも重宝できるかと思います。一方、超高齢社会を迎えた現在は高齢者の外科治療の機会が増えています。各種の術後合併症に対する対処法は、入院患者の

ケアに役立ちます。さらに、泌尿器科医があまり得意としない精神疾患や皮膚疾患に対する診療のポイントも詳細に記載されています。

このように本書では、当直をしている際に出くわす可能性のある幅広い疾患について、診療のポイントを押さえて記載されていますので、時間のあるときに目を通しておくことをお勧めします。きつと当直の際ばかりでなく、通常の外来診療や入院診療でも役に立つことでしょう。コンサルトを受ける側の上級医の先生方にもお勧めの一冊です。ぜひ手元に置いてご活用ください。

● B5 頁272 2021年4月
定価：9,020 円
(本体 8,200 円＋税 10%)
医学書院刊